



県内球場の収容人数

1位

甲子園を懸けた決戦の舞台

ぎふしん長良川球場

2万人以上を収容するぎふしん長良川球場。岐阜市長良福光



7月に入り、甲子園を懸けた球児たちの熱戦が各地で繰り広げられている。今夏の全国高校野球選手権岐阜大会で会場となっているのは県内7球場だが、観客席のある公営球場は他にも存在する。各球場の収容人数を調べてみた。

1位は、ぎふしん長良川球場。1990年完成の県有施設で、収容人数は2万人を超える。岐阜を代表する球場で、プロ野球の公式戦が定期的に行われるほか、夏の高校野球岐阜大会の開会式や決勝の舞台にもなっている。2017年からの大規模改修で天然芝を全面張り替えし、スコアボードを発光ダイオード(LED)化した。岐阜信用金庫が命名権(ネーミングライツ)を取得し、今年4月に「長良川球場」から名称変更した。

2位は、中山公園野球場。老朽化に伴い、今秋から球場の取り壊しと新球場の整備に入る。新球場は27年度中の供用開始を目指しており、グラウンドの広さはぎふしん長良川球場と同規模になる。屋根付きの観客席300席を含む1090席を整え、芝生席を入れた収容人数は改修前と同じ1万人程度になる見通し。



5日に開幕した全国高校野球選手権岐阜大会の開会式で整列する球児たち
＝岐阜市長良福光、ぎふしん長良川球場

3位は、大垣市北公園野球場。ソフトボール女子JDリーグの大垣ミナモトソフトボールクラブのホームグラウンドになっている。60年以上がたち、市は老朽化を受けて改修する方針を示しており、ロッカールームやスピード表示などの設備を充実させる。

4位は、08年に完成した夜明け前スタジアム。市が愛称を募集し、郷土の文豪・島崎藤村の代表作「夜明け前」にちなんで名付けられた。

5位は、土岐市総合公園野球場。野球場のほか、多目的広場やテニスコート、パターゴルフ場などのスポーツ施設が集まる。

6位は、14年に完成したカヤバスタジアム。全面人工芝で、今年から選手控え室に冷暖房が完備された。

7位は、岐阜ファミリーパーク球場。20年には近くの岐阜三輪スマートインターチェンジが開通し、交通アクセスが向上した。

8位の大野レインボースタジアムは、12年のぎふ清流国体の高校野球(硬式)の会場にも使われた。9位のプリニーの野球場は、命名権者の日本一ソフトウェアが自社のゲームの人気キャラクターにちなんで名付けた。10位のTYK球場は、地元の耐火レンガ、セラミックス製品製造のTYKが命名権を取得している。

野球場の収容人数

※ホームページや聞き取りを基に作成

	施設名	所在地	収容人数
1	ぎふしん長良川球場(長良川球場)	岐阜市	22030人
2	中山公園野球場	高山市	10000
3	大垣市北公園野球場	大垣市	8760
4	夜明け前スタジアム(中津川公園野球場)	中津川市	7500
5	土岐市総合公園野球場	土岐市	7000
6	カヤバスタジアム(可児市運動公園スタジアム)	可児市	6200
7	岐阜ファミリーパーク球場	岐阜市	6000
8	大野レインボースタジアム	大野町	5725
9	プリニーの野球場(各務原市民球場)	各務原市	5100
10	TYK球場(多治見市営球場)	多治見市	5000

2位

中山公園野球場 27年度に新球場完成



今秋から新球場整備の工事に入る中山公園野球場。高山市山田町

3位

大垣市北公園野球場



ソフトボールの会場としても使われている大垣市北公園野球場。大垣市八島町

4位

夜明け前スタジアム



島崎藤村の代表作にちなんで名付けられた夜明け前スタジアム。中津川市茄子川

5位

土岐市総合公園野球場



7千人を収容する土岐市総合公園野球場。階段には野球のデザインが施されている。土岐市下石町